

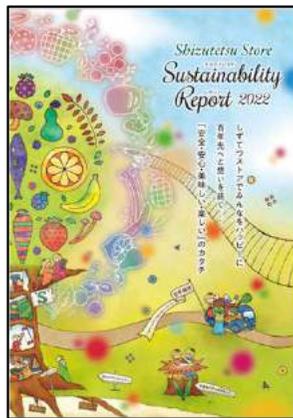
企業の取り組みや開示の特徴

「エコアクション21」の認証にあたって、食品ロスを2022年度に対2013年度比で48%削減することを目標に掲げる。また、重点取組事項として「廃棄物排出量削減」「フードバンク推進」を明記。

食 FB リ

サステナビリティレポート （当該期の価値創造・事業概況の開示）

- 価値創造ストーリーを提示したうえで経営計画、事業概況、サステナビリティマネジメント等に関して説明。
- 価値創造のOUTCOMEの一つとして「食品ロス削減」を掲げる。
- マテリアリティについては、有報と同様、廃棄物排出量の削減を示し、目標・KPIと当該期の進捗実績を記載。



<http://s-store.webcatalog.jp/sustainabilityreport22>

食 FB リ

ウェブサイト （事業活動全般に関する開示）

- 有報や統合報告書では詳説されていなかった、サステナビリティ基本方針等の各種方針、マテリアリティ特定のプロセスを説明。
- 「食品廃棄物の削減」に向けた具体的な取り組みとして、生産工程の改善、食品廃棄物の減量化、リサイクル、賞味期限の延長等の活動を紹介。



<https://www.s-store.co.jp/sustainable/>

価値創造プロセス

日々の暮らしを大切にしたい想いをカタチにして未来へ繋ぎます
[しずてつストアのサステナブル宣言]
**持続可能な成長を続け、
関わる全ての人の幸福に
貢献する**

SUSTAINABLE GOALS

SDGs 達成への貢献

しずてつストア 5つの行動宣言

しずてつストアでみんなをハッピーに。 百年構想

食を通じて百年後もみんな実現したい、という想いのもの

「百年構想～しずてつストアでみんなをハッピーに～」
をモットーに、人も商品も暮るの良きで地域NO.1であり続ける(経営理念)

●マテリアリティを解決する4つのとらきみ

●しずてつストアのマテリアリティ(重要テーマ)

1 健康な食生活と教育の提案
2 食資源・地球持続性
3 事業活動の基盤

環境 食 社会 地域 企業

1 人財育成
2 食育推進
3 地域貢献
4 環境保全

人財 地域 顧客 商品・サービス

ステークホルダーと共通価値の創造
Creating Shared Value

CSVとは
■企業が社会ニーズ(社会課題の解決)に対応することで経済的価値と社会的価値をともに創造しようとするアプローチ

【しずてつストアのサステナブル宣言】 持続可能な世界の実現に向けた取り組みを、2020年4月「サステナブル推進課」の設置を●サステナブル(sustainable)とは「sustain(持続する)とable(～できる)からなる言葉。環境・社会・経済の3つの観点からこの意の中を維持

企業と地域の存続を目指して

●街にいろりを。人にときめき(グループスローガン) ●「信頼され、選ばれる静鉄グループ」であるために。(中長期経営ビジョン)

6 Shizutsu Store Report 2022

しずてつストアでみんなをハッピーに。 百年構想
Shizutsu Store

しずてつストアは、SDGsに照らし合わせた4つの実施項目(4つの柱)を重要課題とし、これからも積極的に取り組み、「誰一人取り残さない社会」を実現するために挑戦してまいります。

未来につなげる4つの柱

| | 人財育成 | 食育推進 | 地域貢献 | 環境保全 |
|------------------|---|--|---|--|
| 2030年までの国際的な目標 | <ul style="list-style-type: none"> すべての人の健康的な生活確保と福祉の推進 質の高い教育と学びの機会の促進 ジェンダー平等の達成 働きがいの促進 不平等の是正 | <ul style="list-style-type: none"> 食料を終わらせる 食料の安全保障と栄養改善、持続可能な農業の促進 持続可能な生産消費形態の確保 グローバルパートナーシップの活性化 | <ul style="list-style-type: none"> 強靱なインフラの構築と産業化の促進 気候変動への緊急対策を講じる形態の確保 グローバルパートナーシップの活性化 | <ul style="list-style-type: none"> 水の能率的な利用と持続可能な管理を確保 近代化のエネルギーへのアクセスの確保 安全かつ強靱な都市及び居住を實現 |
| しずてつストアの2023年の目標 | <p>社員の健康、スキルアップをサポートします</p> <p>社員がいきいきと働き、お客様へ質の高いサービスを提供できるよう、社員のエンゲージメントを高め、心身ともに健康で働きがいのある職場を実現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種検定の取得促進 ・福利厚生充実 | <p>食を学ぶ場の提供</p> <p>従業員はもちろん、地域の方々を巻き込んで、「食」について考える、学べる場を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での出前授業 ・お客様参加型イベントの開催 | <p>フードバンク15t回収・新店舗形態での事業拡大</p> <p>フードドライブの推進や、地域のお客様の身近で、「食」について考える、新たな店舗形態での販売を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードバンク事業 ・とくし丸 ・KITE-GO | <p>CO₂排出量37%削減(2013年度比) 食品ロス4.3%削減(2013年度比) プラ製容器包装31%削減(2013年度比)</p> <p>事業活動により発生する環境的負担を最大限減らし、脱炭素社会の実現に向けた取組等サステナブルな事業展開に取り組めます。</p> |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ推進 ・多様な働き方のための支援制度のさらなる充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・より積極的な地域社会への貢献活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・フードバンク推進 ・栄養と健康の提供 ・食文化の啓蒙 | <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル回収促進 ・エコアクション21 |
| 2022年度取組事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・CS重要度 ・第8回CS大会「九がかりんびく」 ・SDGsセミナー ・富士山清掃 ・ユニバーサルマナー検定 ・「健康経営優良法人2022」認定 ・福利厚生・社コ連携推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・お米づくりプロジェクト ・秋桜会甲子園 ・出前授業 ・健康販売 ・こんたて家 ・フードスタジオ | <ul style="list-style-type: none"> ・ふじとくプロダクト ・全国児童食育コンクールラッピングバス ・お客様参加型調理体験 ・フードバンク ・とくし丸 ・KITE-GO | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみゼロ運動 ・古着回収 ・エコアクション21 ・環境教育啓蒙 |

必要な方へ届け食品ロス削減に貢献

FB

フードバンク・フードドライブの取り組み



食べられるにも関わらず廃棄されてしまう食品を、必要としている施設や人に届け、食品ロス削減を図る社会福祉活動です。しずてつストアでは2014年よりこの活動に参加・協力しています。また30店舗(KITE-GOを除く)にフードバンクを常設しています。「食べきれない食品が支援に繋がる良い取り組みなので、今後も機会があれば寄付したい」等の声をいただきました。

地域と一緒に取り組むエコ活動

環境保全の取り組み



LED照明

生ごみ処理機

クルポ

環境教育冊子



食

実績報告



リ

【ウェブサイト】

株式会社静鉄ストア ウェブサイト「しずてつストア SDGs」

持続可能な未来へ
しずてつストアにできること

豊かな社会とは何か。
私たちが抱く理想で、取り組みで
未来も、ずっと豊かで幸せに。
これからもしずてつストアは続きます。

SUSTAINABILITY
私たちの考えるサステナビリティ

～誰一人取り残さない社会へ～
持続可能な社会の実現を日進し探求された国際的目標「SDGs」の理念に賛同し、
事業活動に取り組みます。

しずてつストアサステナブル

私たちの宣言

持続可能成長を続け
関わる全ての人の幸福に貢献する

Our declaration

食 リ FB

私たちの考えるサステナビリティ

エコアクション21 オブザイヤー2022 **金賞**(環境大臣賞)を受賞しました。
ソーシャル部門

サービス・オブザイヤー2022 **しずてつストア入江店** 受賞しました。
スーパーマーケット部門

しずてつストアが **リデュース・リユース・リサイクル** 推進協議会会長賞 をいただきました
3R推進功労者等表彰

しずてつストアが **食品ロス削減推進大賞** 審査委員会委員長賞 をいただきました!

プロジェクトレポート
WHAT'S NEW

食育推進

「アオハルし放版」にサポート企業として参加しました!

店舗休業

古着回収 PROJECT

12月9日(土)・10日(日) 古着回収開催のお知らせ

地域貢献

「COOL CHOICE 2023 in Shizuoka」にてフードドライブ啓発活動を行いました!

地域貢献

FOOD DRIVE

フードバンクふじのくに×しずてつストア「フードドライブキャンペーン」開催!(2023年11月18日)

食育推進

優勝・準優勝 レシピを商品化!

【販売終了しました】「第9回高校生対抗レシピコンテスト鉄板焼甲子園」優勝・準優勝レシピが商品化されます!

食育推進

「2023お米づくりプロジェクト」新入社員福利研修を実施 2023年10月18日

食 FB

プロジェクトレポート一覧

企業の取り組みや開示の特徴

Lawson Blue Challenge 2050を掲げており、「CO2削減」「食品ロス削減」「プラスチック削減」の3項目について目標（KPI）も策定している。取り組み内容についてもウェブサイトを中心に詳細に紹介されている。

食

FB

有価証券報告書 （当該期の経営実績の開示）

- 食品ロス削減目標を示すとともに、発生してしまった余剰商品への具体的な対策、新しい試み等についても説明している。

■環境面に関わる目標（KPI）

| 課題 | 短期：2025年KPI | 中期：2030年KPI | 長期：2050年KPI |
|---|------------------|------------------|-------------------|
| CO ₂ 排出量削減 （1店舗当たりのCO ₂ 排出量） | 2013年対比 15%削減 | 2013年対比 50%削減 | 2013年対比 100%削減 |
| 食品ロス削減 | 2018年対比 25%削減 | 2018年対比 50%削減 | 2018年対比 100%削減 |

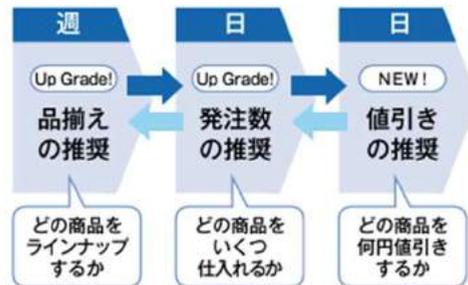
<https://www.lawson.co.jp/company/ir/library/edinet/>

食

FB

統合報告書 （当該期の事業戦略・価値創造の開示）

- グループ全体での環境への取り組み目標を示していることに加え、推進体制や具体的な取り組みなどについて詳細に説明している。
- 「サプライチェーンの最適化と食品ロス削減の両立」の取り組みを説明しており、企業価値向上につながる取り組みである点も説明されている。



<https://www.lawson.co.jp/company/ir/library/annual report/>

食

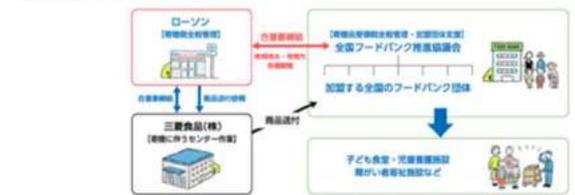
FB

リ

ウェブサイト （事業活動全般に関する開示）

- 発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）の各区分での取り組みを詳細に説明している。

◆余剰食品管理の開示図



12月のクリスマス時期にはクリスマスケーキ、年末年始にはおせちの惣菜にも取り組みを拡大しています。惣菜先の拡大も進めており、一般社団法人こども食育応援団、東京都品川区の「しあわせ食事業」、『食都府（まよとフードセンター）』、『WeSupport Family』などに対し定期的に食品や日用品などを提供しています。



<https://www.lawson.co.jp/company/activity/>

(サステナビリティに関する考え方及び取り組み)

当社はグループ理念「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」に基づき、当社の事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すため、2019年3月1日付でSDGs委員会を設置しました。同委員会を核に、すべての事業活動において社会課題の解決につながる取り組みを進めております。さらに、2021年3月1日に、CSO（チーフ・サステナビリティ・オフィサー：最高サステナビリティ責任者）に代表取締役社長が就任し、取り組みを一層強化しております。

具体的には、当社のバリューチェーンを含めた事業活動において環境・社会・経済に対する影響が大きい課題から優先すべき社会課題を「6つの重点課題」として整理して取り組みを進めております。

<6つの重点課題>

1. 安全・安心と社会・環境に配慮した圧倒的な高付加価値商品・サービスの提供
2. 商品や店舗を通じてすべての人の健康増進を支援
3. 働きやすく、働きがいのある環境の提供
4. 子どもの成長と女性・高齢者の活躍への支援
5. 社会インフラの提供による地域社会との共生
6. 脱炭素社会への持続可能な環境保全活動

環境への取り組みは、2019年に環境ビジョン「Lawson Blue Challenge 2050! ～“青い地球”を維持するために！～」を策定し、①CO₂排出量削減、②食品ロス削減、③プラスチック使用量削減（容器包装、レジ袋）の3つに関して重点的に取り組みを進めております。また、気候変動問題に対応するため、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」に基づき、気候に関連するリスクと機会を分析し、当社の事業活動及び財務への影響に関する開示を進めております。

■環境面に関わる目標 (KPI)

| 課題 | 短期：2025年KPI | 中期：2030年KPI | 長期：2050年KPI |
|---|------------------|------------------|-------------------|
| CO ₂ 排出量削減 (1店舗当たりのCO ₂ 排出量) | 2013年対比 15%削減 | 2013年対比 50%削減 | 2013年対比 100%削減 |
| 食品ロス削減 | 2018年対比 25%削減 | 2018年対比 50%削減 | 2018年対比 100%削減 |

記載例のポイント

- 目標 (KPI)が示されている。
- 発生してしまう余剰品について、同社ならではの食品ロス削減の取り組みが示されている。

・食品ロス削減の取り組みにおいて、2022年度から販売許容日（時間）^{*4}の切れた商品の有効活用として、クックパッドマート^{*5}を活用した値引き販売（一部のデザート）や、急速冷凍機を活用した子ども食堂への寄贈（一部のファストフード）の実証実験を実施するなど新たな手法による食品ロス削減に挑戦しております。また、店舗への納品期限の切れたオリジナルのお菓子や加工食品などを定期的に一般社団法人全国フードバンク推進協会や一般社団法人子ども宅食応援団などに寄贈する取り組みを続けております。2022年度は約135万個（約126トン）^{*6}を寄贈しました。

^{*4} ローソンとして販売できる日数（時間）の限度を定めたもので、メーカーの示す消費期限や賞味期限とは異なります。

^{*5} クックパッド株式会社が提供する生鮮食品ECプラットフォームです。

^{*6} 取引先の協力を含む実績です。

Lawson Blue Challenge 2050 !

[イントロダクション](#) |
 [価値創造](#) |
 [戦略](#) |
 [サステナビリティ](#) |
 [コーポレート・ガバナンス](#) |
 [財務・会社情報](#)

Lawson Blue Challenge 2050 ! 達成に向けて

ローソングループは、当社の創業50周年に当たる2025年及びSDGsの目標年である2030年をターゲットに、社会・環境面に関わる目標(KPI)を策定し、達成に向けて取り組んでいます。さらに脱炭素社会を2050年に実現し、青く豊かな地球環境を未来につなげるために、長期目標として環境ビジョン「Lawson Blue Challenge 2050 !」を策定しました。

今後も、SDGsが目指す姿に貢献すべく、CO₂排出量の削減、食品ロスの削減、容器包装のプラスチックやレジ袋削減などの環境課題に対応した取り組みを進め、2025年及び、2030年、2050年の目標(KPI)の達成に向けてチャレンジしていきます。

脱炭素社会を2050年に実現するため、環境ビジョンを策定し
長期目標を掲げ、目標達成に向けチャレンジ

| | 2025年 創業50周年 | 2030年 SDGs目標 | 2050年 Lawson Blue Challenge 2050 ! ~ “青い地球”を維持するために! ~ |
|--|------------------------------------|--------------------------------------|--|
|  CO ₂ 排出量の削減 | 1店舗当たり 2013年対比 15%削減 | 50%削減 | 100%削減 |
|  食品ロス削減 | 1店舗当たり 2018年対比 25%削減 | 50%削減 | 100%削減 |
|  プラスチック 使用量削減 | 容器包装プラスチック 2017年対比 15%削減 | 容器包装 プラスチック 30%削減 | オリジナル商品の容器包装 環境配慮型素材 100%使用 |
| | | オリジナル商品の容器包装 環境配慮型素材 50%使用 | |
| | | プラスチック製 レジ袋 100%削減 | |

食

マチの幸せ創造のためのマテリアリティ

「SDGs(持続可能な開発目標)」への貢献

ローソングループのSDGsへの貢献に関する考え方

ローソングループは、グループ理念「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」のもと、「マチの“ほっと”ステーション」を目指した事業方針「3つの約束」を通じてチャレンジしていくことこそ「SDGs(持続可能な開発目標)」への貢献につながると考え、社会課題解決に向けて積極的に取り組みを進めています。

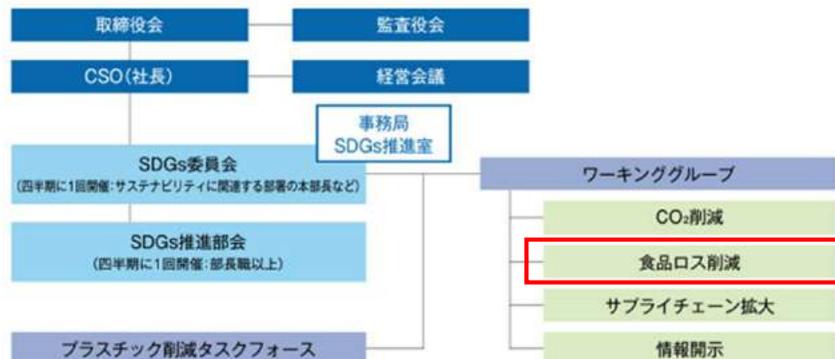
SDGsへの貢献に向けた体制整備とPDCAの実行

事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すべく、2019年3月から「SDGs委員会」を立ち上げるなど、社会課題の解決に向けて必要な体制を整備し、PDCAを回しています。

2021年3月1日からは、CSO(チーフ・サステナビリティ・オフィサー:最高サステナビリティ責任者)を設置し、代表取締役社長がこの任に就き、取り組みを一層強化しています。課題への対応については、SDGs委員会が「3つの約束」に即して重点課題を設定し、定期的にグループ全体の進捗の共有を行うとともに、各部門が事業活動における自主的な取り組みを推進しています。

また、重点課題の中でも特にスピード感をもった対応が必要であると考えられる「CO₂削減」「食品ロス削減」「プラスチック削減」「サプライチェーン拡大」「情報開示」については、SDGs委員会のもとにワーキンググループなどを設置し、取り組みの強化にあたっています。

SDGs委員会組織体制 (2023年3月1日時点)



食

食品ロス削減

ローソンは、廃棄物の中でも食品ロスの削減を非常に重要な課題ととらえ、2030年に2018年対比50%削減を目指し、発注の適正化や値引き販売の推進、容器の工夫による消費期限の延長などを組み合わせて食品ロス及び食品廃棄を出さないように努めています。



「てまえどり」の実施

消費者庁、農林水産省、環境省の3省庁、及び一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会と連携し、「てまえどり」を実施しています。「てまえどり」とは、商品を購入後すぐに召し上がる予定のお客さまに、商品棚の“手前”にある商品から順番に“取り”、購入いただくことを促すことで、食品ロスの削減を目指す取り組みです。

FB

販売許容時間[※]の過ぎたからあげクンなどを急速冷凍し寄贈

店舗での食品ロスの削減と食品の有効活用を目的に、販売許容時間がすぎたからあげクンなどのフライドフーズを急速冷凍し、支援を必要とする子ども食堂などへ寄贈する実証実験を東京都内の一部店舗で実施しています。

この実証実験では、店舗で販売許容時間が過ぎたフライドフーズを、鮮度を保ったまま保存が可能な液体急速冷凍機で凍結し、品川区及び社会福祉法人品川区社会福祉協議会と連携した子どもの食を支援する取り組みの一環として、しながわ子ども食堂ネットワーク事務局を通じて、品川区内の子ども食堂などに寄贈しています。寄贈した商品は子ども食堂で再調理され、昼食や夕食のメニューに活用されています。この実証実験を通じて地域のニーズやオペレーション面を検証し、他店舗への展開やアイテム拡大を検討しています。



※ ローソンが独自に定めている、お客さまに販売可能な時間のこと。消費期限はすぎていないため、店頭から撤去しているが喫食できる商品。

食

大改革実行委員会 | 収益構造・生産性大変革

個客起点サプライチェーン改革プロジェクト

食

サプライチェーン最適化と食品ロス削減の両立

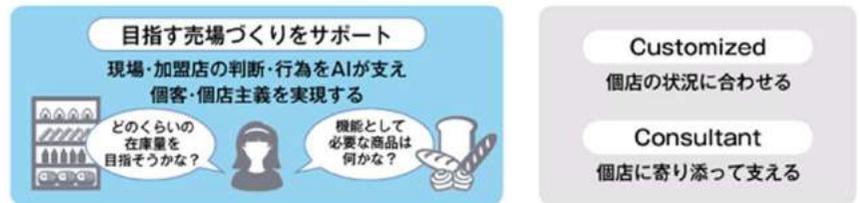
個客起点サプライチェーン改革プロジェクトでは、ローソンが取り組むべき社会課題の一つである食品ロス削減に向け、天候・販売実績などの各店舗ごとのデータをもとにした商品別の需要予測と、それに基づいた商品発注推奨でサプライチェーン全体の最適化に取り組むとともに、日販(売上高)と荒利益高の改善による加盟店利益の最大化を目指しています。

次世代発注システム「AICO」を全国展開

2015年に導入したセミオート発注(個店のデータをもとにその店舗に最適な品揃えと商品の発注数をAIが自動算出する発注システム)で店舗の発注精度の向上に取り組んできました。このセミオート発注を刷新した次世代発注システムを、2021年に東北の一部店舗^{※1}、さらに2022年6月~9月に東北と東京の一部店舗^{※2}にて先行検証を重ねてきました。先行検証を通じて、対象カテゴリー^{※3}において売上高・荒利益高・廃棄高に対する想定した効果を得られたことから、「AICO」(AI Customized Order / AI Consultantの略)として、2024年3月を目処に全国の店舗への導入を開始します。AICOは、従来のセミオート発注で実現していた品揃え、日々の発注数の推奨に加え、値引きについても一気通貫で推奨することで、さらなる販売機会ロスと食品ロス(廃棄ロス)の削減につなげていきます。

新しい仕組みで目指す姿

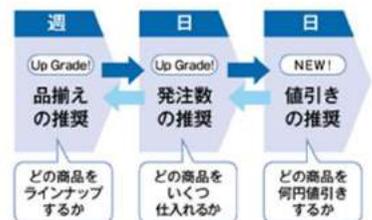
次世代発注システム「AICO」は、一人ひとりのお客さまを起点として、加盟店それぞれのあるべき売場を見つめ直し、それを実現するための発注をAIがサポートすることによって、個客・個店主義を実現するシステムです。また、現場・加盟店の判断・行為を尊重し、AIによる推奨を通じて加盟店を支えていくという姿を目指しています。AICOという名称には「Customized=個店の状況に合わせる」「Consultant=個店に寄り添って支える」という想いが込められています。



※1 約60店舗
 ※2 約180店舗
 ※3 対象カテゴリー: 米飯(弁当・常温寿司・おにぎり・チルド弁当)、調理パン、調理麺、惣菜、デザート、ペーカリーなど

次世代発注システム「AICO」の特長
 品揃えの推奨

各店舗のお客さまの購入実績、立地及び売場状況に応じて、週に1度、品揃え商品の推奨を行います。現行のセミオート発注よりも、さらに個店の特徴を反映した品揃えを実現することが可能となります。



発注数の推奨

現行のセミオート発注導入以降のAI・計算処理技術の進展を踏まえ、より精度の高い推奨を実現します。過去の自店・他店でのより広範囲のデータ(天気、在庫状況、個々の商品の販売実績、及び商品間の販売連動性など)に基づき販売予測を行ったうえで、利益が最大となる各商品の発注数の推奨を毎日行います。

値引きの推奨

発注推奨と共通の販売予測ロジックを活用しながら、利益最大化の観点による値引き推奨を行います。従来、販売期限が迫る商品の値引き販売は、店舗の経験に頼る部分が大きいものでしたが、AIを活用し個店ごとにその日の在庫の状況に応じた値引き額や値引き時間を推奨することで、不要な値引きを回避し、より効果的に売り切ることが可能となります。また、経験が不要となることで値引きの頻度を高めることや、店長及びベテランクルーなどの業務負担の軽減や店舗運営の効率化などにも寄与します。

ロジック精度の向上と最適な店舗指導モデルの確立へ

本格導入に向けて、2023年度はシステムのさらなる改良を進めるとともに、オーナー及びクルーが安心して活用できる体制の構築と導入の準備を進めていきます。例えば、値引きの推奨に関しては、店舗でのオペレーション負荷軽減のため、本部からの推奨を確認したうえで、簡易的に値引きシールの印字が可能となる仕組みの導入を予定しています。こうした取り組みを通じて、デジタル(次世代発注システム)とアナログ(スーパーバイザーによる店舗指導)の両面から個店の目指す売場づくりをサポートし、販売機会ロスと食品ロス(廃棄ロス)を削減し加盟店利益の最大化を目指します。



食

(1) 発生抑制（リデュース）

- ・ 製造工場：製造工程における余剰食品の発生を抑制
- ・ 店舗：セミオート（半自動）発注システムによる余剰食品の発生の抑制
- ・ 店舗：商品の値引き販売による売り切りの推進
- ・ 店舗：「てまえどり」の実践
- ・ 店舗：恵方巻などの催事商品の予約販売の促進
- ・ 商品：容器の工夫などによる消費期限の延長
- ・ 商品：サラダ・漬物などの原材料に規格外野菜を活用

FB

(2) 再利用（リユース）

- ・ 配送センター：店舗への納品期限の過ぎた商品のNPO団体等への寄贈
- ・ 店舗：販売許容時間（日）※の過ぎた商品の値引き販売や寄贈（実証実験）

※販売許容時間（日）：お客さまにより安全な商品を安心してご購入求めいただくために、「消費期限」の前に自主的に設定した期限です。

リ

(3) 再生利用（リサイクル）

- ・ 店舗：ファストフードの調理に使った食用油（廃油）のリサイクル
- ・ 店舗：売れ残り食品の飼料化・肥料化（家畜のエサや野菜などに与える肥料に加工）

【ウェブサイト】 株式会社ローソン ウェブサイト「地球環境保全の取り組み」

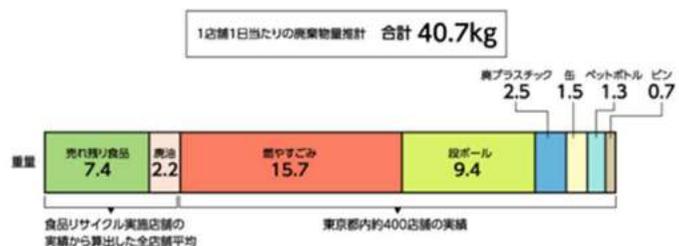
食

店舗廃棄物の排出量を測定

ローソンでは、廃棄物の削減やリサイクルを促進する上での基礎データにするため、店舗の廃棄物の実態調査を継続して行っています。

2022年度の廃棄物は1店舗1日当たり40.7kg、うち売れ残り食品は7.4kgとなりました。

●1店舗1日当たりの廃棄物量推計



期間：2022年4月1日～2023年3月31日

食品ロス削減への取り組み

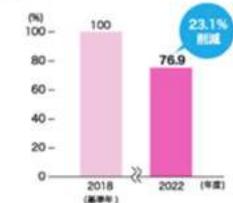
日本及び世界で、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品（食品ロス）の多さが大きな問題となっています。環境省によると、令和3年度の食品ロス発生量は約523万トン。2019年10月1日から「食品ロスの削減の推進に関する法律」（食品ロス削減推進法）が施行され、いっそうの食品ロスの削減の取り組みが進められているところです。食品ロスの削減については、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」の中で、「2030年までに世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させること」がターゲットとして盛り込まれています。そこでローソンは、廃棄物の中でも食品ロスの削減を非常に重要な課題ととらえ、2025年に2018年対比25%削減、2030年に対比50%削減を目指し、発注の適正化や値引き販売の推進、容器の工夫による消費期限の延長などを組み合わせて食品ロスの削減に努めています。



出典：環境省公表「我が国の食品ロスの発生量の推計値（令和3年度）」

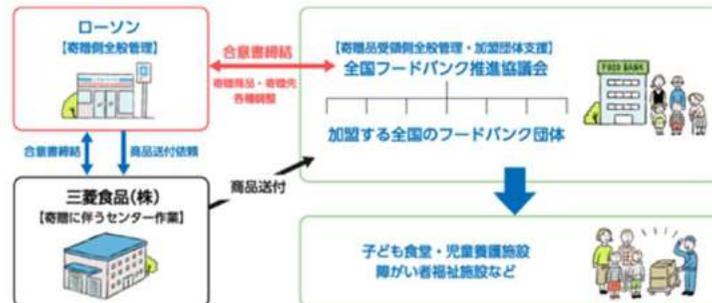


●1店舗当たりの食品ロス削減率



FB

●余剰食品寄贈の関連図



12月のクリスマス時期にはクリスマスケーキ、年末年始にはおせちの寄贈にも取り組みを拡大しています。寄贈先の拡大も進めており、一般社団法人こども宅食応援団、東京都品川区の「しあわせ食卓事業」、「京都府（きょうとフードセンター）」、「WeSupport Family」などに対し定期的に食品や日用品などを寄贈しています。



こども宅食

リ

●ローソングループ食品リサイクル等実施率及び実施店舗数の推移



※1 食品リサイクル等実施率は、(株)ローソン沖縄、(株)ローソン南九州、(株)ローソン高知を除いた数値です。

※2 4月1日から翌年3月31日で算定しています。